

リズム表現活動のためのピアノ曲に関する一考察

—「保育者のためのピアノ曲集」(聖和大学編) についての質問紙調査より—

A study of piano pieces for the rhythmic movement activities
— Based on a questionnaire survey about “Piano pieces for teachers” (edited by Seiwa college) —

持田 葉子*
丸尾 喜久子**

要 約

In our college, a collection of piano pieces for the rhythmic movement activities have been compiled since 1941, and it has been used in some kindergartens and nursery schools.

The collection was revised in 2007. In the revision, we added some original piano pieces which are easy to use and flexible for the rhythmic movement activities. In this paper, we attempted the survey how the collection was used in the rhythmic movement activities in kindergartens and nursery schools.

The result suggested that the piece mostly used was easy to play, arrange for playing in time to children's movement, and we found the teachers requested such pieces.

Future issues are to increase the number of pieces that are easy to play and arrange, and to consider the development of lectures in which students can practically learn how to use piano pieces in rhythmic movement activities.

キーワード：リズム、身体の動き、ピアノ伴奏

I. はじめに

本学では1940年代の聖和女子学院の時代より、保育で用いることのできるピアノ曲集を独自に編纂してきた。この曲集は、「幼児教育者のためのピアノ曲集」また最近では「保育者のためのピアノ曲集」という名称で、これまで保育現場でも活用され、また本学の学生のピアノレッスンや、子どもの音楽活動に関する授業にも用いられてきた。佐藤(2005)によると¹⁾、多くの保育者養成校では、バイエル等の既成の教則本を用いてピアノの授業が行われており、このように保育現場ですぐに用いることができるピアノ曲集を自ら編纂し、授業で使用している例は多くはないようである。

本曲集の特徴は、子どものリズム表現活動のための伴奏曲を中心に編纂されていることである。ここでのリズム表現活動とは、身体の動きによるリズム活動をさす。具体的には、音楽と共に歩く、走る、

スキップなど体全体を使ってリズムカルな動きを楽しむ、また動きを工夫して身近なものを模倣したりイメージを動きで表現していくという活動である。こうした音や音楽と共に動くという経験は、音と動きの共通要素であるリズムを感じとり、また音楽と自分の動きとの心地よい調和を味わうことにつながる。

本学では、早くからこうした身体の動きによるリズム活動の重要性を認識し、保育の中に取り入れてきた。また、その活動を支えるためには、動きに合う伴奏曲が必要であることから、様々な動きや表現に合うピアノ曲を集めた曲集が、独自に編纂されていった。歴史的には、古くは米国から持ち込まれた動きのための楽譜集から曲が選択され、以降保育現場のニーズや学生のピアノのレベル等に合わせて何度も改訂がなされ、現在に至っている。

最近の改訂は2007年に行われた。この改訂ではそれまでの曲集の内容を見直し、保育現場でのリズム

*Yoko MOCHIDA 聖和短期大学 准教授

**Kikuko MARUO 聖和短期大学 教授

1) 佐藤敦子 2005 保育者養成校におけるピアノ教育の実態と幼稚園保育所の実習時及び採用試験時におけるピアノの実態と評価基準 福島大学研究紀要第37集 135-153

表現活動が行いやすいようにとの願いから、独自のオリジナル曲を取り入れた。また難易度別に第1部(初級)、第2部(中級)、第3部(上級)と分け、そのうち第1部では現場で活用しやすいように、「Ⅰ. マーチ」「Ⅱ. 2拍子・4拍子のさまざまな動きの曲」「Ⅲ. 6/8拍子系、ギャロップ、スキップ」「Ⅳ. 3拍子、静かな曲、その他の活動のための曲」と、楽曲を動き別に分類して掲載した。さらに、保育現場での実際の子どもの活動に適したテンポ設定ができるような曲を取り入れ、時にはリズムを変えたり、オクターブ移動したりすることで、表現の幅を増やせるようにするなど、大幅な改訂を行った。

このように、本曲集は主に保育でのリズム表現活動において活用できるようにと考えて編纂されてきたが、これまで保育現場で有用に活用されているのかどうか、十分に調査されてこなかった。真に現場で生かすことのできる曲集を作成するためには、実際に子どもたちとリズム表現活動を行う保育者の意見を聞く必要がある。そこで本稿では、この2007年に改訂した「保育者のためのピアノ曲集」が、保育現場でどのように使われているのか、またどのように評価されているのかを知り、リズム表現活動を豊かに展開するための伴奏曲について考察し、今後の曲集編纂に役立てることとする。

Ⅱ. 研究方法

1. 研究目的

2007年改訂版「保育者のためのピアノ曲集」が、リズム表現活動においてどのように使われているのかについて、質問紙調査を通して明らかにする。

2. 対象と手続き

2008年3月に、2007年改訂版「保育者のためのピアノ曲集」を寄贈した本学の実習園、また実習園以外に、2009年以降に本学卒業生が就職した保育所と幼稚園に、無記名式の質問紙を郵送により配布し、2007年改訂版「保育者のためのピアノ曲集」を、リズム表現活動で使用している保育者に回答を依頼した。配布数は、幼稚園55、保育所44の合計99園である。調査期間は、2012年7月。回収数は48で、有効回答数は46であった。

3. 調査項目

調査項目は、以下の通りである。

- ①保育者としての経験年数
- ②保育でリズム表現活動を行う頻度(選択回答)
- ③どのような動きや表現を保育で行っているか、またその伴奏を「保育者のためのピアノ曲集」から選んでいる場合、どの曲を使用しているか。(それぞれの動きや表現に対して曲番号を記入)
- ④リズム表現活動に使える曲が十分に足りているか(選択回答)
- ⑤曲集の難易度について(選択回答)
- ⑥本曲集の曲をアレンジする頻度(選択回答)
- ⑦リズム表現活動のための選曲の基準(複数回答)
- ⑧リズム表現活動においてピアノを弾くときに気を付けていること(自由記述)
- ⑨2007年改訂版「保育者のためのピアノ曲集」についての意見(自由記述)

4. 倫理的配慮

質問紙は無記名回答とし、回答内容は研究以外の目的には使用しないこと、本調査に賛同する場合にのみ回答していただくよう記し、質問紙への回答が返送されたことを以って、同意を得たこととした。

Ⅲ. 結果と考察

1. 回答者の保育経験年数

回答者の保育経験年数の割合を表1に示した。

最も多いのが「1年目～2年目」(37%)で、次に多いのが「3年～4年」(28.3%)であった。1年～5年を合わせると65.3%となり、本調査においては、比較的経験の浅い保育者の回答が多かった。これは、2007年度改訂版「保育者のためのピアノ曲集」が本学の授業で使われたのが、2009年度の卒業生からということ、また経験年数のある保育者は、この版が出る以前の曲集やその他の曲を用いているため、新たにこの版を使用することがない、などが要因として考えられる。

2. リズム表現活動を行う頻度

保育中どのぐらいの頻度でリズム表現活動を行っているかについて、表2に示した。最も多いのが、「週に1日～2日」(37.0%)である。「月に2回～3回」が24.0%、「週に3日～4日」が17.4%、「毎日」が13.0%、「年に数回」が6.5%であった。

表1 保育経験年数

	人 (%)
1年～2年	17 (37.0)
3年～4年	13 (28.3)
5年～6年	6 (13.0)
7年～8年	4 (8.7)
10年～11年	2 (4.3)
13年～14年	2 (4.3)
17年	1 (2.2)
30年	1 (2.2)
計	46 (100.0)

表2 リズム表現活動を行う頻度

	人 (%)
毎日	6 (13.0)
週に3日～4日	8 (17.4)
週に1日～2日	17 (37.0)
月に2回～3回	11 (24.0)
年に数回	3 (6.5)
その他	1 (2.1)
計	46 (100.0)

3. リズム表現活動のための曲が十分に足りているか

ここでは、「基本的な動き」と「表現あそび」に使える曲が十分に足りているかどうかについての調査結果を、図1に示した。

本調査での「基本的な動き」とは、「歩く」、「走る」、「スキップ」、「跳ぶ」などの基礎的な動き、また「表現あそび」とは、動物や自然現象、また子どもが経験したことなどを、自由に動きで表現する活動を指す。

「基本的な動き」で最も多かったのが「十分足りている」(54.3%)で、「どちらかというと足りている」(37.1%)を合わせると、91.4%が足りていると考えていることがわかった。しかし、「どちらか

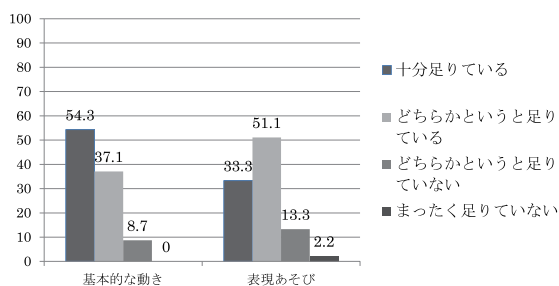


図1 「基本的な動き」と「表現あそび」に使える曲が足りているか

というと足りていない」と考える回答者の記述では、「マーチ」「ケンケンパー」「片足跳び」「すべる」「ギャロップ」等の曲、また「全体的に簡単で暗譜しやすい曲を増やしてほしい」という意見が見られた。

また、「表現あそび」で最も多かったのが「どちらかというと足りている」(51.1%)で、「十分足りている」(33.3%)を合わせると、約85%が足りていると回答している。しかし、「基本的な動き」では、「十分足りている」との回答が54.3%なのに対して、「表現あそび」では33.3%となっており、あまり積極的に足りていると考えられていないことがうかがえる。

「表現あそび」に使える曲が十分足りていないと考える回答者の記述では、増やしてほしい曲として、「動物表現の曲」、「泳ぐ、海の中、宇宙、宇宙人、植物の成長、等」の表現の題材に合う曲、「子どもたちがイメージしやすい親しみのある曲や知っている歌のアレンジ曲」などがあげられた。また、本曲集の模倣活動に使える曲は、「子どもたちになじみがないため使いにくい」「表現あそびの際は、チョウなら『ちょうちょ』の歌をアレンジして使うなど、子どもになじみのある曲を使った方が、のびのびと表現できる」という意見もあり、題材のイメージがやすく、親しみやすい曲を求める保育者もいることがわかった。

4. 曲の選択基準

リズム表現活動を行う際に、どのようなことを重要視して曲を選んでいるかについての結果を、パーセンテージの多い順に並べ替えて図2に示した。

最も多いのが、「曲が動きに良く合っている」(97.8%)であった。次に多いのが「弾きやすい」(71.7%)で、以下「アレンジしやすい」(50.0%)、「子どもにとって親しみやすい」(32.6%)、「以前に弾いたり聴いたりして知っている」(17.4%)、「長さがちょうど良い」(15.2%)、「音楽的である」(6.5%)となった。

「動きに合っている」という選択基準は、リズム表現活動では、動きと音楽のリズムの調和が重視されていることを示すと考えられよう。また、次に多かった「アレンジしやすい」という選択基準は、リズム表現活動を行う際には、子どもの動きに合わせて臨機応変に曲を変化させている保育者が多いた

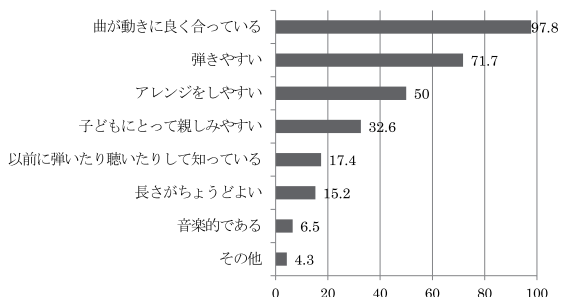


図2 曲の選択基準 (複数回答)

めと考えられる。「リズム表現活動でピアノを弾く時に気をつけていること」の自由記述においても、記述のあった43名のうち15名が、「子どもの動きや表現に合わせて強弱や速さを変える」、「動物によって速さや曲の高さを変える」など、特に子どもの動きや表現に合わせて曲に変化をつけることをあげており、そうした理由から、アレンジしやすいことが、曲の選択基準として重要になっていると思われる。

このように「アレンジしやすい」という選択基準が3番目に多く見られる結果となったが、では具体的にどのようなアレンジが多くなされているのだろうか。

5. アレンジの頻度

本曲集の曲を、アレンジをして弾く頻度についての調査結果を図3に示す。アレンジの種類は、「速さを変えて弾く」「音の高さを変えて弾く」「強弱を変えて弾く」「音型やリズムを変えて弾く」の4項目である。

「速さを変える」アレンジでは、「よくある」が78.3%で、「時々ある」(21.7%)を合わせると、全員が行っている。

「高さを変える」アレンジについても、「よくある」が75.6%で、「時々ある」(20.0%)を合わせると95.6%で頻度が高い。

「強弱を変える」アレンジは、「よくある」が48.9%で、「時々ある」(22.2%)を合わせると71.1%となり、頻度が下がっている。また「あまりない」が22.2%、「まったくない」が6.7%であった。

「音型やリズム」を変えるアレンジは、「よくある」が33.3%で、「時々ある」(22.2%)を合わせると55.5%と頻度が落ちており、「あまりない」が33.3%、「まったくない」が11.1%で、最も低い結

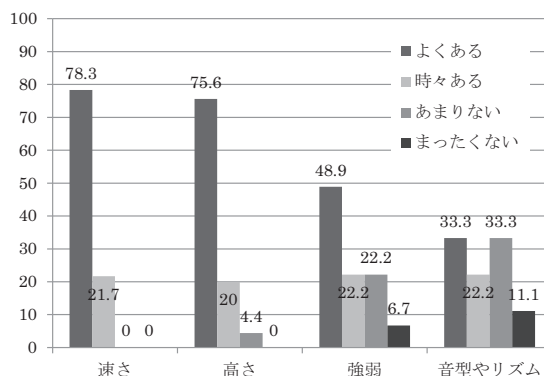


図3 本曲集の曲をアレンジして用いる頻度

果となった。

坂田ら(2009)は²⁾、幼稚園教諭を対象に、保育の中でどのようなピアノに関連する専門性が必要とされているかについて調査し、その中で「ピアノのいろいろな弾き方や使い方、身体表現の援助や効果音として使うものがあるかについて」質問した。その結果でも、「速いテンポや遅いテンポなど速さを変えて弾く」が最も多い項目としてあげられ、また次に「音の高さを変えて弾く」、そして「強弱を変えて弾く」に続き、最後に「伴奏部分の音型やリズムを変える」という結果が示され、本調査もこれと同じ結果であった。

「速さを変える」アレンジ方法が最も多い要因としては、リズム表現活動では子どもの動きに合わせて速さを変える場面が多くあること、また他のアレンジ方法と比較して容易に行いやすいことが考えられる。

このようにリズム表現活動では、特に「速さ」「高さ」のアレンジを行う頻度が高いことがわかった。

6. リズム表現活動で選択されている曲について

ここでは、「歩く」「ゆっくり歩く」「静かに歩く」「つま先歩き」「走る」「片足跳び」「両足跳び」「スキップ」「ギャロップ」「蹴る」「まわる」「転がる」「這う」の13種類の動きにおいて選択された曲の調査結果について考察したい。

1) 各動きの選択された曲数と最も多く選択された曲

それぞれの動きで選択された曲数と、どの曲が最も選択されているかについて表3に示した。(回答者数は、動きによって本曲集を使っていない場合が

2) 坂田直子他 2009 保育者養成における音楽的専門性の育成～幼稚園教諭へのピアノ等鍵盤楽器に関する質問紙調査を手がかりに～ 埼玉大学紀要教育学部58 15-30

表3 各動きの選択された曲数と最も多かった曲（複数回答）

	選択された曲数	最も多かった曲	度数 (%)
歩く (32)	18曲	1番	21 (65.6)
ゆっくり歩く (19)	12曲	1番	9 (60.9)
静かに歩く (10)	8曲	1番	4 (40.0)
つま先歩き (10)	10曲	1番	4 (40.0)
走る (27)	14曲	13番	16 (59.2)
スキップ (23)	6曲	80番	14 (60.9)
ギャロップ (15)	6曲	32番	9 (60.0)
両足跳び (21)	18曲	8番、57番	4 (19.0)
片足跳び (14)	9曲	13番	6 (42.9)
蹴る (12)	7曲	13番	10 (83.3)
回る (7)	10曲	29番、30番	3 (42.9)
転がる (6)	6曲	30番、69番	2 (33.3)
這う (10)	8曲	17番、41番	3 (10.0)

() 回答者数

あるためそれぞれに異なる。）

各動きの最も多く選択された曲をみると、「歩く」では1番、「スキップ」では80番、「ギャロップ」では32番が最も多く選択されていた。また、13番は「走る」「片足跳び」「蹴る」の3つの動きにおいて最も使われていた。「両足跳び」では8番と57番、「這う」では17番と41番、「回る」では29番と30番、「転がる」では30番と69番が最も多くあげられた。このうちの、1番、8番、29番、30番、41番、69番は本学オリジナル曲である。本曲集の改訂時に、保育現場でのリズム表現活動が行いやすいようにと考えて作られた曲であるが、ここであがったオリジナル曲は、概ね受け入れられていると考えて良いのではないだろうか。また、オリジナル曲以外の13番、32番、57番、80番は、古くから曲集に掲載されている曲であり、保育現場では馴染みのある曲だと考えられる。

2) 難易度別にみた選択された曲数

ここでは、1部（初級）、2部（中級）、3部（上級）ごとの選択された曲数をみてみたい。

13種類の動きで選択された曲は全部で57曲、またその選択された回数を合わせると延べ317曲であった。1部2部3部ごとの選択された曲数と、選択された回数は、表4の通りである。

1部からは33曲、2部からは24曲があげられているが、選択された回数は、1部の曲が2部の約3倍であった。また3部からの選択はなかった。

表4 各部分ごとの選択された曲数と選択回数

	選択された曲数	選択された回数
1部	33	250
2部	24	67
3部	0	0

この結果から、全体に1部の曲が多く使われていることがわかる。「曲集に対する意見」の自由記述においても、「第1部の曲は、子どもがリズムをとりやすい曲が多く弾きやすいので、今後の保育に引き続き取り入れたい」や「第1部は覚えやすいのでよく使っている」などの感想があげられた。また、「リズム表現活動でピアノを弾くときに気を付けていること」に対する自由記述においては、「簡単な曲を選び、余裕を持って弾き、子どもの方を見られるようにする」「子どもの動きをよく見る」などの意見が多数あげられていた。このことから、子どもの動きを見ながら弾くために、簡単な曲が選択されていると考えられる。では、具体的にどの曲がよく使われているか、次項でみていきたい。

3) よく使われている曲について

13種類の動きで使われている曲のうち、よく使われている曲の上位5曲を表5に示した。

最も使われているのが1番（13.5%）で、次に13番（10.9%）、32番（5.3%）、7番（4.4%）、15番（4.1%）と続く結果となった。本曲集では、1番、7番は「歩く」活動、13番は「片足跳び」「蹴る」

表5 よく使われている曲

	曲番号	度数	%
1	1番	46	13.5
2	13番	37	10.9
3	32番	16	4.7
4	7番	15	4.4
5	15番	14	4.1

などの片足で跳躍する活動、32番は「スキップ」「ギャロップ」、15番は「走る」曲として分類されている。以下で、良く使われている上位3曲についてそれぞれ考察する。

①「1番」(譜例1)

この曲は、ピアノが初歩の者でも弾きやすいように本学教員が作曲したもので、2004年の改訂版に初めて掲載されたものである。

この曲は、左手の位置の移動がなく、また和音もトニックとドミナントの2種類のみが使われている。また、伴奏部分は単音の四分音符が続き、比較的易しく弾ける曲となっている。

また活動別にみると、「歩く」「ゆっくり歩く」「つま先歩き」「静かに歩く」「走る」「両足跳び」「片足跳び」「蹴る」と、8種類の動きの伴奏として使われており、それぞれの動きの特徴に合わせて、速さなどのアレンジがなされ用いられていると思われる。

質問紙の自由記述の中には、「1番はアレンジがしやすく、様々な場面で使っている」という感想もあった。曲の選択基準についての調査結果においても、「弾きやすい」こと「アレンジがしやすい」ことが、上位2位と3位を占めており、弾きやすさとアレンジのしやすさが、この曲がよく使われる要因ではないかと考えられる。

②「13番」(譜例2)

この曲は、T. OESTEN 作曲「人形の夢と目覚め」の第3楽章の1部分である。ピアノを習う時に比較的よく弾く曲なので、幼少期からピアノを習っている者には親しみがあると思われる。本学編集の曲集には古くから入れられており、中村(2003)³⁾の調査でも、保育で1番良く弾く曲としてあげられている。

この曲は1番と同様、左手の和音がトニックとドミナントの2種類だけであり、また右手のメロディ

も最初の8小節は、まったく移動をしなくても弾けるようになっている。全体に軽やかなスタッカートが続き、「片足跳び」「蹴る」などの動きに良く合っている。

また、活動別にみると、「走る」「蹴る」「片足跳び」「歩く」「両足跳び」「転がる」「這う」において使われており、1番と同様に、アレンジされて使われていると推察される。

この曲においては、親しみやすさと、また1番同様、弾きやすさとアレンジのしやすさがよく使われる要因と考えられる。

③「32番」(譜例3)

この曲は、E. FOGG 作曲の「かわいいチャールズ」という曲で、古くから曲集に入れられていたものである。8分の6拍子で決して易しくはない曲であるが、古くから保育現場で使われており、親しみがあると考えられる。

動き別にみると、「ギャロップ」と「スキップ」に使われており、どちらの動きにも使いやすいと思われる。

このようによく使われている曲は、32番以外は、鍵盤上の手の移動がほとんどなく弾きやすいこと、またそのために速さや音の高さを変えるアレンジがしやすいという点からよく用いられていると推測される。

また、「1番」や「13番」は、「歩く」「ゆっくり歩く」「つま先歩き」「静かに歩く」「走る」「両足跳び」「片足跳び」「蹴る」の動きに用いられているが、「スキップ」と「ギャロップ」には用いられていない。また逆に、「32番」は「スキップ」と「ギャロップ」だけに用いられ、他の動きには用いられていない。これは、スキップのリズムの曲を、他の動きのリズムにアレンジしたり、また逆に「歩く」リズムの曲を、スキップのリズムにアレンジしたりすることの難しさから来るものと考えられる。本曲集のスキップの曲は全部で7曲、ギャロップの曲は全部で6曲であるが、スキップとギャロップが単独で用いられていることを考えると、もう少し数を増やす方が良いのではないだろうか。また「1番」と「13番」以外にも、弾きやすくまたアレンジのしやすい曲をさらに増やすことも必要ではないかと思われる。

3) 中村千晶 2003養成校における音楽教育の現状について～養成校と保育現場のアンケート資料を通して～聖和大学論集 第31号 93-103

SEIWA COLLEGE

☆

1.

6

(歩く、とぶ、ける、走る)

Detailed description: This is a piano score for 'SEIWA COLLEGE'. It consists of two systems of music. The first system starts with a treble clef and a star symbol (☆) above the staff. The melody is simple, with quarter and eighth notes. The bass line consists of a steady eighth-note accompaniment. The second system continues the melody and accompaniment, ending with a double bar line. The tempo is not explicitly stated but the rhythm is simple and rhythmic.

譜例 1

T. OESTEN

Allegretto

13.

p

6

f

Fine

11

D.C.

(片足とび、ける)

Detailed description: This is a piano score for 'T. OESTEN'. It is in 2/4 time and marked 'Allegretto'. The score is in two systems. The first system starts with a treble clef and a piano (*p*) dynamic. The melody features eighth-note patterns with fingerings (5, 2, 4) and slurs. The bass line has a steady eighth-note accompaniment. The second system continues the melody, ending with a forte (*f*) dynamic and a 'Fine' marking. The third system starts with a treble clef and a 'D.C.' (Da Capo) marking, with a tempo change to a 3/4 time signature. The melody continues with eighth-note patterns and slurs. The bass line remains steady. The piece ends with a final measure.

譜例 2

E. FOGG

Allegretto ☆ **かわいいチャールズ**

32.

mf

6

f

12

mf

(スキップ、ギャロップ)

Detailed description: This is a piano score for 'かわいいチャールズ' by E. Fogg. It is in 6/8 time and marked 'Allegretto'. The score is in three systems. The first system starts with a treble clef and a mezzo-forte (*mf*) dynamic. The melody is a simple eighth-note pattern with fingerings (2, 4, 2). The bass line has a steady eighth-note accompaniment. The second system continues the melody, ending with a forte (*f*) dynamic. The third system starts with a treble clef and a mezzo-forte (*mf*) dynamic, continuing the melody and accompaniment. The piece ends with a final measure. The tempo is described as 'スキップ、ギャロップ' (skip, gallop).

譜例 3

IV. まとめと今後の課題

本稿では、2007年改訂版「保育者のためのピアノ曲集」がリズム表現活動においてどのように使われているかについて調査し、その結果、子どもの様子を見ながら弾くことができる簡単で覚えやすい曲、また子どもの表現に合わせて臨機応変にアレンジしやすい曲がよく使われていることがわかった。また、本曲集改訂時に本学オリジナルの曲を取り入れたが、それらの曲の幾つかも良く使われていることが確認できた。これらのことから、本曲集改訂時において、第1部の易しい曲を増やしたこと、またアレンジしやすい曲をオリジナル曲として取り入れたことについては評価できるのではないだろうか。リズム表現活動の曲を選ぶ際に、半数の人が「アレンジしやすいこと」を基準にしていることから、今後は、こうした弾きやすくアレンジしやすい曲をもう少し増やしていくことが必要であると思われる。

また、曲集の編纂と共に、リズム表現活動において本曲集をどのように使っていくのかということ、授業において実践的に学生が経験することが必要である。質問紙の回答の中には、「曲集を練習して、そこから長さや速さ、そして自分の弾けるようにアレンジする方法を知ること」「子どもを見ながら、言葉をかけながら弾けるようにする方法を知ることが必要ではないか」との意見もあった。福西ら(2009)⁴⁾も、学生に必要な実践的体験として、「子どもの動きについて豊かな想像ができること」「動

きに合ったリズムをピアノで生み出せること」「子どもの動きに合わせて弾くことができること」の3つをあげている。学生がこうしたより保育の実践を想定した体験をするために、音楽関係科目間の連携を強くし、学生に必要な実践的経験を、どの授業でどのように用意していくのかということを考えていく必要がある。本曲集が現場で活かせる曲集となるために、今後は更なる曲集の見直しと、保育の実践に即した授業の展開について考えることを課題としたい。

引用・参考文献

- 藤善瑞子、川村晴子、三木孝子、小林光子 1991 こどものための動きの表現 不昧堂
- 福西朋子、山本敦子、三宅啓子 2009 保育現場と連動した養成校の音楽教育内容・方法のあり方(2)～子どもの創造的な音楽活動を支える基礎技能習得を目指して～ 高田短期大学紀要27号 84-96
- 久保田芳枝 1973 こどもとリズム—リズム教育の理論と実際—れんが書房
- 中村千晶 2003 養成校における音楽教育の現状について～養成校と保育現場のアンケート資料を通して～ 聖和大学論集 第31号 93-103
- 西洋子、本山益子 2009 子どもの身体表現～からだどころ・あらわしてあそぼう～ 市村出版
- 坂田直子、山根直人、伊藤誠 2009 保育者養成における音楽的専門性の育成～幼稚園教諭へのピアノ等鍵盤楽器に関する質問紙調査を手がかりに～ 埼玉大学紀要教育学部58 15-30
- 佐藤敦子 2005 保育者養成校におけるピアノ教育の実態と幼稚園保育所の実習時及び採用試験時におけるピアノの実態と評価基準 福島大学研究紀要第37集 135-153

4) 福西他 2009 保育現場と連動した養成校の音楽教育内容・方法のあり方(2)～子どもの創造的な音楽活動を支える基礎技能習得を目指して～ 高田短期大学紀要27号 84-96